

寄稿文

島根大学医学部国際交流推進室

室長 菅野 貴浩

International Panel Discussion for SDGs (sustainable development goals)は、島根大学の戦略的機能強化推進経費推進事業として、本学を挙げて推進する SDGs への医学部の取り組みの一環として実施しています。島根大学医学部国際交流推進室とアジア各国の連携大学、医療従事者（医師・歯科医師等）や学生、大学事務職員による共同での推進計画事業です。国際政策である SDGs に関するアジア各国の現状や活動を学ぶことから、今後島根大学医学部としての SDGs への取り組みの展望を共有することを目的としています。

全4回（ベトナム社会主義共和国、インドネシア共和国、インド、カザフスタン共和国）を通して延べ 150 人以上の関係者が本シンポジウムに参加し、活発な議論と情報共有を行うことができました。特にアジア各国からの考えとして印象的であったのは、医療従事者が多いためゴール3（すべての人に健康と福祉を）に関連した内容が多くなることを予想していましたが、ゴール6（安全な水とトイレを世界中に）やゴール9（産業と技術革新の基盤をつくろう）などの環境因子のテーマにも触れられる発表が多く見受けられた点です。SDGs の解説資料において、国によってできる事、求められる事が異なることは説明されていましたが、実際に文化、社会背景の違いがわれわれ医療者の職業観念に与える影響を肌身で感じ取ることができる貴重な機会となりました。

Web を通じてオンデマンドでの視聴が可能ですので、お時間がございましたら皆さま是非ともご視聴下さい。

近年、SDGs はストックホルムにあるレジリエンス研究所が考案した「ウェディングケーキモデル」という構造モデルで解釈されます。SDGs の全 17 ゴールはそれぞれ大きく 3 つの階層（経済圏、社会圏、生物圏）に分かれ、下層の成熟が上層のゴール達成に寄与するというモデルです。日本は先進国の一員として上層の SDGs への取り組みに注目が集まることが多いですが、それは下層のゴールを達成した成果として得られたことを自覚すべきであり、上層のゴールにだけ目を向けるのではなく、下層のゴールの裾野を国際的かつ学際的に広げていく取り組みにも目を向けるべきであることが、今回のパネルディスカッションを通して再認識させられました。今後もこの SDGs の取り組みは本学の総合大学としての強みを活かし、医学部からの発信事業として島根大学をあげての取り組みとなるよう、積極的な国際的連携活動として継続して参る所存です。

事務業務担当 医学部歯科口腔外科学講座

助教 松田悠平

The SDGs wedding cake



図: SDGs のウェディングケーキモデル Credit: Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University (CC BY 4.0)



図: SDGs United Nations, Department of Economic and Social Affairs Sustainable Development <https://sdgs.un.org/goals> より引用